日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会（事務局）
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男（地方会会長）
http://jsohkink.umin.jp

第59回近畿地方会総会にあたってのご挨拶

地方会会長　車谷典男

会員の皆様におかれては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。総会開催にあたり、今年度の地方会活動などについて会員の皆様に一言ご報告申し上げます。

1.学会は2013年に公益法人化へ

本年５月、東京で開催された全国学会で正式に理事が選出され、役割分担も確定し、近畿からは圓藤吟史先生が副理事長に就任しました。総会では公益法人への移行を前提とした新定款も承認されました。担当省庁とのやり取りは続いていて、修正の可能性は残されていますが、学会としては公益法人化へ大きく舵を切ったことになります。その中で、地方会組織の位置づけなども課題になりますので、その議論に積極的に参加していただくことを願っています。

2.新年度地方会予算について

幹事会での論議を経て、今回の総会でご承認いただいた予算には新しい事項が３点あります。一つは、地方会にとって最も重要な学術事業である近畿産業衛生学会の開催費を10万円増額するとともに、日常的な実践活動の支援を目的に産業医部会・産業看護部会・産業技術部会への助成金を各５万円ずつ増額しています。一つは、事業積立金の開始です。近畿地方会の全国学会と産業医・産業看護全国協議会の担当が、そう遠くない時期に想定されています。それへの準備です。もう一つは、調査事業への予算措置です。具体的には、近畿圏内の産業看護職実態調査の実施です。従来、産業看護部会が５年ごとに実施してきていたものですが、その内容から地方会全体の調査事業と位置づけなおした結果です。大脇理事が実施責任者となります。

3.地方会ホームページ(HP)の充実強化へ

地方会HPがリニューアルされて半年余りが経ちます。広報担当幹事つまり地方会ニュースの編集委員に担当していただいています。速報性、迅速性を要する事をHPにタイムリーに掲載しつつ、一方で、地方会ニュースと近畿産業衛生学会抄録のバックナンバーなど資料価値のあるものをアーカイブとして充実させていくことを予定しています。

4.表彰制度の創設へ

幹事会で論議を重ねた結果、表彰制度を創設することに決定しました。近畿地方会活動の一層の活性化を目的としたもので、具体的には、秋の近畿産業衛生学会の一般演題の中から優秀演題を原則として１題選考し、当日、会場で表彰しようというものです。地方会という特色を生かして、実験室的な研究にこだわらず、優れた実践的な産業衛生活動も対象にしようというものです。選考規程の作成が順調に進めば、今年の近畿産業衛生学会で第一回表彰が行われる予定です。

5.役員選挙規定の改正

代議員や地方会長、近畿選出理事などの役員選挙は、現在２年に一度実施されています。これは公益法人になっても変わることなく続く見込みです。しかし、２年に一度は間隔が短く、経費的にも物理的にも負担となっています。選挙規定自体は定款で定められていて、その範囲内のことにはなりますが、工夫の余地はまだまだあるというのが幹事会の認識です。現選挙管理委員長土手先生を中心に委員会を組織して、次回の総会までに簡素化案を練ることになりました。承認が得られれば、次回の選挙(来年ですが)は簡素化したものを実施したいと考えています。

6.近畿産業衛生学会に是非演題申し込みを

夏目誠会長のもとに本年11月５日(土)に第51回近畿産業衛学会が開催されます。ここ数年、一般演題数が減少傾向にあります。学会での様々な交流と最優秀演題賞の獲得を目指して、一題でも多くの演題申し込みを期待しています。詳細は本号ニュースをご覧ください。

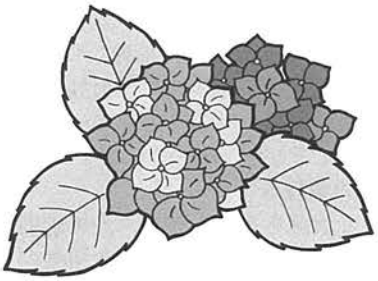
今年度も会員皆様の一層のご協力を申し上げます。

（総会・シンポジウム会場）

平成23年度総会議事録

日時　2011年６月18日（土）13：00～13：50
場所　大阪市立大学医学部学舎４階大講義室

1．開会
2．地方会長の挨拶
3．昨年度物故会員の報告
　別所　康守（べっしょ　やすもち）氏
　三崎　勝之（みさき　かつゆき）氏
　柚木　孝士（ゆき　たかし）氏
　小川　捨雄（おがわ　すてお）氏
4．黙祷
5．議長選出
　圓藤陽子会員（関西労災病院）を選出
6．総会成立の確認
　５月15日現在の地方会員数1,319名のうち出席者77名（委任状424名）。会員の５分の１以上の出席により総会は成立（地方会会則第18条）。
7．議事録署名人の選出
　河合俊夫会員（中災防大阪労働衛生総合センター）
　冨岡公子会員（奈良県立医科大学）
8．議　事
(1) 平成22年度事業報告（車谷会長）
　地方会ニュース第86号（本年５月15日発行）の３頁と４頁に掲載された資料に基づき報告があり、異議なく承認された。
(2) 平成22年度決算報告（清田副会長）
　地方会ニュース第86号２頁に掲載された収支報告に基づき報告があり、異議なく承認された。
(3) 平成22年度監査報告（植本寿満枝監事）
　植本寿満枝監事（平成23年３月29日）と廣田昌利監事（同23年３月16日）が、地方会事務局（奈良医大）で監査を行い、決算書類にかかわる通帳など証拠書類が適切に管理され、執行が適切に行われていることを確認した旨の報告があった。
(4) 平成23年度事業計画案（車谷会長）
　地方会ニュース第86号５頁に掲載された資料に基づき説明があり、異議なく承認された。
(5) 平成23年度予算案（清田副会長）
　地方会ニュース第86号２頁の予算（案）に基づき、近畿地方会開催予算を10万円、３部会の助成金を各５万円増額したこと、産業看護職実態調査を地方会事業として予算化したこと、日本産業衛生学会等準備の事業積立金を新設したことなどの説明があり、異議なく承認された。
(6) 第51回近畿産業衛生学会の進捗状況
　夏目誠会長から、2011年11月５日（土）、奈良県文化会館（奈良市）で開催し、特別講演はうつ病関連で名古屋大学精神医学教室の尾崎教授に依頼、懇親会は猿沢荘の予定との報告があった。
(7) 第52回近畿産業衛生学会の準備状況
　森岡郁晴会長から、従来通り11月、会場は和歌山医大保健看護部を予定しているとの説明があった。
(8) その他
　①地方会ホームページと地方会ニュースの発行
　中西一郎担当幹事から、地方会ニュース・HPとも順調に発行・更新している旨の報告があった。
　②本部新定款承認にともなう地方会の検討課題
　宮上浩史委員長から、本部新定款で地方会は独立組織ではないとされ、準会員も設置されたが、近畿地方会では準会員は設置しないとの説明があった。
　③近畿産業衛生学会優秀演題賞の創設（車谷会長）
　優秀演題賞を今年度から設け、学会当日に表彰すること、選考規定を作成中との説明があった。
　④第53回近畿産業衛生学会の開催地（車谷会長）
　京都大学の小泉昭夫幹事に学会長、開催スケジュールの決定を要請するとの報告があり、了承された
　⑤その他
　車谷会長から、役員選挙簡素化のために改正案を検討委員会で作成、来年度総会で承認を受け、その改正案に則って選挙を実施したいとの発言があった。
9．議長解任
10．閉会



平成22年度近畿地方会収支報告および平成23年度予算

1．収入の部

科目	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	摘要
(1) 会費収入	2,000,000	2,474,000	2,200,000	
正会員会費収入	1,700,000	1,994,000	1,900,000	過去の実績
特別会員会費収入	300,000	480,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
(2) 助成金収入	1,890,000	2,116,300	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	1,897,500	1,890,000	1,260×1,500円
本部選挙交付金		218,800	0	
(3) 事業収入	200,000	180,000	150,000	
広告料収入	200,000	180,000	150,000	
(4) その他収入	300,500	468,769	500	
受取利息	500	554	500	
産業衛生講座講習会余剰金		168,215		講座は22年度で終了
役員選挙積立金より	300,000	300,000	0	
当期収入合計	4,390,500	5,239,069	4,240,500	
前期繰越収支差額	3,324,437	3,324,437	4,373,886	
収 入 合 計	7,714,937	8,563,506	8,614,386	

2．支出の部

科目	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	摘要
(1) 事業費	3,350,000	2,499,715	3,550,000	
①機関誌費	1,450,000	1,117,791	1,300,000	
印刷費	500,000	494,040	500,000	
広報活動費	150,000	25,705	150,000	
通信運搬費	800,000	598,046	650,000	
②助成金支出	1,150,000	850,000	1,400,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	400,000	400,000	500,000	活性化のため増額
産業医部会助成金支出	100,000	100,000	150,000	〃
産業看護部会助成金支出	100,000	100,000	150,000	〃
産業技術部会助成金支出	100,000	100,000	150,000	〃
研究会補助金	300,000	150,000	300,000	
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	531,924	750,000	
地方会総会開催費	500,000	441,924	500,000	
学術担当費	250,000	90,000	250,000	
④調査研究事業費			100,000	産業看護職実態調査
(2) 管理費	2,250,000	1,689,905	1,720,000	
①運営費	1,750,000	1,222,361	1,220,000	
幹事、代議員会費	150,000	122,880	120,000	
広報渉外費	1,000,000	210,000	1,000,000	
役員改選費	600,000	834,781	0	
運営雑費		54,700	100,000	
②事務費	500,000	467,544	500,000	
事務局費合計	400,000	400,000	400,000	
備品	0	0	0	
消耗品費	100,000	67,544	100,000	
(3) その他支出	0	0	400,000	
役員改選積立金支出	0	0	400,000	24年度実施予定の積立金
(4) 事業積立金			1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金			500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金			500,000	
(5) 予備費	490,000	0	500,000	
当期支出合計	6,090,000	4,189,620	7,170,000	
当期収支差額	-1,699,500	1,049,449	-2,929,500	
次期繰越収支差額	1,624,937	4,373,886	1,444,386	
支 出 合 計	7,714,937	8,563,506	8,614,386	

財産目録　(1)ノートパソコン・デル１台　(2)FAX（0744-22-1801）Panasonic　１台

22年度の会計年度は平成22年３月１日から平成 23年２月28日まで。

第59回近畿地方会総会 特別講演を拝聴して

大阪ガス㈱
健康開発センター
濵 田 千 雅

6月18日、市立大学医学部学舎にて辻井農亜先生より「発達障害とどうむきあうか」というテーマでお話を伺いました。職場で出会う発達障害には、①幼少期に診断される～身体障害者で採用される場合②成人期に診断される～通常枠で採用される場合があり、職場では後者が問題となることが多いそうです。

DSM-IVの診断基準では発達障害という項目はなくなり、発達障害に含まれる疾患には『精神遅滞』・『学習障害』・『コミュニケーション障害』・『運動能力障害』・『広汎性発達障害』となりました。

『精神遅滞』は原因不明なことが多く、産業保健現場ではIQ50-70の軽症の人が問題になることが多く、比較的複雑な家庭環境のことが多いそうです。また、知能水準としては正常と障害の境界域の水準値IQ71-84に該当する人が理論値では人口の14%も居ると考えられ、その多くは顕著な不適応を示すことなく社会生活を送っていると考えられている現実があることを知りました。

注意欠如多動性障害（ADHD）も厚生労働省の定義では発達障害に含まれ、ADHDは①実行機能回路の破綻と②報酬系回路の破綻の両方が起こると説明されていました。

『広汎性発達障害』は、我々の職域でも時々そうでないかなというケースに出くわすことがあります。もともと成人期の発達障害があり、地域・会社などにおいて現場からのストレスがかかることによって何らかの恒常性の破綻をきたし、適応障害の二次障害が引き起こされると教えて頂きました。また、障害が見落とされることもストレスになると。発達障害を職域で受け入れていくためには、広汎性発達障害をもつ人の就労上の問題を医療職が十分理解し、それを現場へ浸透させることが重要であると思いました。

また、夏目誠先生のお話では、現代の女子大生さんの特徴と社会適応性（対人トラブル）を先生オリジナルの『真面目系・キャピキャピ系・おうち系』といった分類でわかりやすく説明して頂きました。また、職場における課題のひとつに世代間のコミュニケーションギャップが大きく立ちはだかり、教えたフリとわかったフリの『フリフリ症候群』の存在や若者が『学びや労働』からの退却が逃走に進み、そのためおうち系の若者が増加し、男性の草食化につながり引きこもり100万人の時代を迎えているそうです。若年労働者のメンタルヘルス不調を対応する上でとても貴重なご講演でした。ありがとうございました。

第59回近畿地方会総会 シンポジウムを拝聴して

株式会社平和堂
健康管理室
志 摩 梓

今回のシンポジウムは「職域における若年労働者のメンタルヘルス対策」というテーマで行われました。日頃の業務の中で、「新型うつかも」とか、「発達障害かもしれない」と思う社員に出会うことが多くなっており、他社の事例を具体的に伺えるまたとない機会だと、楽しみに参加させていただきました。悪天候にも関わらず、空席を見つけるのが難しいほどの盛況で、多くの産業保健職が苦慮しているトピックなのだということを再認識した次第です。

三井化学大阪工場産業医の赤築先生からは、サンユー会メンタルヘルスプロジェクトの調査結果について御紹介いただいた後、若年層へのメンタルヘルス研修の工夫等についてお話いただきました。新入社員教育のひとつとして、メンタルヘルスを他の研修と同列に位置づけていること、e-learningでは、研修内容の復習も可能であることなどを、たいへん興味深く伺いました。研修のやりっ放しではなく、不調感がある時に復習できる工夫をされていることがポイントと受け止めました。

ダイハツ工業保健師の玉木先生のお話からは、長年にわたり丁寧なご活動を継続され、保健師がメンタルヘルス研修や不調者フォローの中心的役割を果たしている様子がよく伝わってきました。カウンセリングがうまくいった、あるいは難しかった事例について伺いながら、暖かく、自然体で社員に寄り添うご様子が垣間見えてくるようでした。傾聴を基本としながらも、時には若い社員の勤務態度に率直な指摘もすること、メンタルヘルスを担当する看護職間で事例検討する大切さなどについてもお話いただき、あっという間に時間が過ぎました。

座長の伊藤先生のご発言は、職場のトラブルをなんでも産業保健職に相談するといった、職場の対応力の問題などもきちんと観察する必要があること、その上で、「産業保健職の立ち位置」をしっかり確立することが重要という趣旨だと理解しました。長澤先生からは、特に看護職の役割について、ご経験にもとづいた所感をいただきました。

発達障害、新型うつと、メンタルヘルスのトピックは時代とともに変わっても、対応の基本にあるのは傾聴する姿勢であり、職場調整にあたっては本人や上司・同僚と産業保健職の信頼関係が重要であることについて、再認識させられました。

第84回日本産業衛生学会に参加して

㈶近畿健康管理センター
医療統括本部保健事業グループ
西村　梢

はじめに、東日本大震災で被災された皆さまには深くお見舞い申し上げます。関西圏の会員の方々にとっても、あの阪神大震災の記憶とともに、心を痛めていらっしゃることと思います。一日も早い復興を願っております。

今回第84回日本産業衛生学会にて、特定保健指導の改善効果の検討について、ポスターによる発表の機会を得ました。口頭発表とは異なり、諸先生方から直接貴重なご意見や感想を頂戴しました。この経験を今後の研究に活かしていきたいと思っております。

さて会場ですが、「生活習慣と健康」「ストレス・メンタルヘルス対策」「特定保健指導の事例」に関する演題は大変興味深いものがありました。私が発表を行った健康教育・ヘルスプロモーションのセッションでは、各事業所・健康保険組合内での保健指導の検討が発表され、会場内は産業保健に関わる先生方の熱気が溢れていました。特定保健指導をテーマにした演題も多く出されており、口頭・ポスターともに、産業保健職の効果的な保健指導方法の検証を行った演題に関心を持ちました。特に、優良演題『２型糖尿病新規発症に関する禁煙とその後の体重変化の影響』を拝聴し、“長期にわたる禁煙は２型糖尿病の発症を軽減する”との報告はもちろん、裏づけされた理論的なご説明、活発な質疑応答の様子と、密度の濃さに感じ入りました。また、今回の未曾有の災害に伴い、「災害時の産業保健」をテーマに緊急講演が開催され、被災された方・支援にあたる方の健康保護を目的とした各ご専門の見解を拝聴する機会を与えていただきました。今後復興へ向けて、私たち会員も手探り状態からアプローチ方法を模索していくことになるかと思います。スタンダードモデルのない事象へいかに取り組んでいくか、新たな課題と感じました。

管理栄養士にとって、産業保健での活動の場は未知数であると感じます。働く人がより良い健康状態を維持するためには、“食生活”は生活習慣改善の重要なキーワードです。これからも日々研鑽を積み、労働者の健康管理・疾病予防および労働力向上に寄与していきたいと思います。

第84回日本産業衛生学会に参加して

中央労働災害防止協会
大阪労働衛生総合センター
坪井　樹

2011年５月18～20日に東京都港区で開催された第84回日本産業衛生学会に参加しました。

３月の東日本大震災の影響もあり開催されるのか、参加者は少ないのではないかと、色々考えておりましたが、参加してみるとかなりの盛況でどのセッションも多くの方の聴講がありました。早めに行かないと座れない講演も多数見受けられました。今回のメインテーマは「働くということと産業保健－その原点に還って－」ということで、労働者に直結するようなシンポジウムや教育講演等が多く見られました。その中で私が聴講した講演やポスター発表等について書かせていただきます。

まず、私は初日（18日午後）にポスターで超小型ＶＯＣ（揮発性有機溶剤）のサンプラーについて発表しました。発表内容は、現在市販されているサンプラーが明らかに目立つ大きさであるために事務仕事等に就いている労働者がつけることを嫌厭する現状を踏まえ、はるかに小さいサイズのサンプラーを製作し、他社サンプラーとの分析値の比較を行い、そのサンプラーの実用が可能であることを報告いたしました。意見や質問は多くありませんでしたが、多くの専門家がいる会場で発表させていただき、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

この時間のその他のポスター発表は、化学的環境や物理的環境の発表が多くありました。今年の電力供給の影響で、特に東北や関東で問題になるであろう熱中症の発表は非常に興味深く感じました。また、講演でも熱中症のテーマがあり、同じ地域で他の事業所よりも熱中症の発症が抑えられた実例をあげ実用的なアイデアが発表されていました。

次の日のポスター発表では、メンタルヘルスの発表が行われました。この時間の発表はとても多くの聴講者がおり、今現在多くの企業が抱えている問題であることが浮き彫りとなっているようでした。メンタルヘルスの講演にも多くの方が参加しており、今すぐ具体的な対応が必須であり、どの職場においても共通の課題であることを実感しました。

今回の学会に参加し、最近の話題や注目されている課題などを改めて勉強させてもらいました。

第16回　近畿産業医部会研修会のご案内

本年も近畿産業医部会研修会を開催いたします。多くの方々のご参加をお待ちしております。
日時：平成23年９月３日（土）午後２時～午後５時
会場：大阪市立大学　医学部学舎　４階大講義室
対象：産業医、産業看護職、人事・労務・産業保健実務担当者
募集人数：250名
参加費：３,000円
テーマ：働く人々への健康支援
14:00　教育講演　『労働衛生の現状と課題　最近の法改正を含めて』
講師
宮﨑　龍雄　和歌山労働基準監督署長
座長　山田　誠二　パナソニック健康保険組合産業保健センター所長）
15:00　シンポジウム『特定保健指導がもたらした変化』
シンポジスト
阪本　善邦　パナソニック健康保険組合
岩根　幹能　和歌山健康センター
原　共乃　近畿労働金庫
井手　陽子　京都工場保健会
座長
森岡　郁晴　和歌山県立医科大学保健看護学部教授
阪本　善邦　パナソニック健康保険組合健康開発センター所長
カリキュラム：
日本医師会認定産業医制度生涯教育（更新・専門研修）３単位と日本産業衛生学会産業看護職継続教育実力アップコース２単位
申し込み方法：
氏名、勤務先（職種）、連絡先のFaxまたは電話番号を記入のうえ、Faxもしくは官製はがきで、実行委員会事務局へお申し込みください。
当日参加も可能ですが、申し込みの時点で定員を超えているような場合は参加をお断りする場合があります。できるだけ事前に申し込みをお願いします。
問い合わせ先：
第16回近畿産業医部会研修会実行委員会事務局
（実行委員長　森岡郁晴）
〒641-0011　和歌山市三葛580
和歌山県立医科大学保健看護学部
TEL　073-446-6700　FAX　073-446-6720

看護部会研修会とお知らせ

Ⅰ.平成23年度定例研修会予定
＜第１回＞
日　時：７月９日（土）午後１時30分～４時30分
会　場：エルおおさか本館　７階　709会議室
テーマ：「これで納得！労働安全衛生マネジメントシステムと産業看護職の役割」
講　師：島村　紘二氏　（島村安全衛生研究所）
JISHA方式OSHMS評価員
中災防公認KYTインストラクター
中災防大阪安全衛生教育センター RST講師
話題提供：三菱樹脂長浜工場総務部
西川　幸位保健師
キヤノンＭＪ㈱人事本部人事部
中村　千賀保健師
※日本産業衛生学会産業看護職継続教育単位
Ⅳ－１－（8）　２単位 取得可能
＜第２回＞
日　時：12月３日（土）午後１時30分～４時30分
会　場：エルおおさか本館　６階　大会議室
テーマ：検討中
※日本産業衛生学会産業看護職継続教育単位取得予定

Ⅱ．お知らせ
近畿地方会学会活動の一環として、近畿産業看護部会では、地方会会員である保健師・看護師の勤務状況及び業務の実態を把握し、産業看護職の役割・専門性・職務を明確化することを目的に、「産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査」を予定しております。
調査結果につきましては、近畿産業衛生学会での発表、近畿地方会ニュース掲載などで皆様に結果還元を致します。
調査研究のテーマ：「近畿地方会会員である産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査」
調査期間：８月１日（月）～30日（水）
回収期限：９月14日（水）
※７月中旬以降、郵送にてお手元に調査票が届きますので、ご協力よろしくお願いいたします。
近畿産業看護部会会長　大脇多美代

技術部会総会と討論会のお知らせ

人、もの、サービスの移動の自由化にともない、企業生産は国内だけではなく世界中で行われています。今日のグローバル化した産業社会においては、労働衛生管理手法も、自国のみならず他国にもあてはまるような共通性が求められています。今回の研修では、日本の労働衛生管理、労働衛生分野における国際協力の方向性と途上国からの期待について、討論したいと思います。講演は、日本の国際協力機構、産業医科大学、開発途上国の研修生２名の合計４名が行います。また、特別講演は人だれしもがもっとも気になる老化をとりあげ、「皮膚の老化とそのケアー」と題して、元資生堂研究員にお願いしております。

講演会テーマ：労働衛生分野における国際協力と期待と皮膚の老化とケアー
主催：日本産業衛生学会・近畿地方会・技術部会
日時：平成23年10月22日（土曜）13時～17時
場所：貸会議室　ユーズ・ツウ(大阪ヒルトンホテル、四ツ橋筋側)
西梅田駅４－B出口すぐ
電話06-6345-1326
講演名・講演者　（下記に示す講演名は現在仮称です）
１．日本の労働衛生分野の国際協力について
国際協力機構（JICA）寺門　雅代
２．日本の労働衛生管理（作業環境管理を中心に）について
産業医科大学　熊谷　信二
３．わが国（研修生出身国）の労働衛生管理の現状と日本への期待
JICA研修生（来日後に決定）
４．わが国（研修生出身国）の労働衛生管理の現状と日本への期待
JICA研修生（来日後に決定）
座長・司会者：国際協力機構：寺門雅代
中央労働災害防止協会：水沼一典
特別講演
皮膚の老化とケアー
元　資生堂研究員　坂本　哲夫
座長：和歌山医科大学　宮下　和久
終了後技術部会総会予定
討論会にはどなたでも参加できます。多くの方の参加をお待ちしています。
技術部会　世話役　河合　俊夫

シリーズ
自己紹介

私たちの職場

近畿大学医学部公衆衛生学教室

教授　伊木　雅之

私たちの職場、近畿大学医学部公衆衛生学教室は1974年の近畿大学医学部設置と共に開設され、初代教授の清水忠彦先生（現名誉教授）を1997年に伊木が引き継ぎました。清水先生は大阪府の全公立小学校の全生徒を対象にした呼吸器を中心とする症状調査を30年にわたって実施され、大気中SOxやNOxの環境基準策定の重要なデータを提供されました。その研究は今でも続いています。

伊木の着任後は生活習慣病、特に骨粗鬆症の疫学が、産業医学と並んだ中心課題となりました。Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) Studyは全国７市町を対象にした疫学研究で、内３地域は10年間追跡し、今年は15年次追跡研究に取り組んでいます。スタッフは准教授の甲田勝康、玉置淳子、講師の由良晶子、助教の藤田裕規に博士課程大学院生１人、研究員３人、実験助手１人、秘書２人のこぢんまりとした研究室です（写真１）。

当教室の特徴の一つは近畿大学医学部の安全衛生への取り組みで、甲田、玉置両准教授は近畿大学医学部の専属産業医ですし、当教室の元助手の池田行宏現講師（写真１囲み）は医学部安全衛生管理センター専任の衛生工学衛生管理者です。池田講師が衛生管理者となってからは、当学部の安全衛生管理も活発になりました。医学部には多数の医師や医療関係者がいますが、安全衛生には正直言って無頓着なところがあります。一方、研究室や附属病院には多くの危険有害業務と有害要因があります。夜勤、電離放射線、特化物、有機溶剤、暑熱、インフルエンザ、B型肝炎、結核等、職場巡視をしているとその認識を新たにすることがしばしばです。

下の写真２は栄養部です。30人のスタッフで1000床ある病院の食事を提供しています。病院の中でも火事やケガが起こる可能性が高い職場です。実際、巡視中に蒸し器の蒸気漏れを発見し、部品を交換してもらいました。調理場では時間との戦いで、事故はそのような時に起こるので、作業者同士の声かけを自分が思っている以上にすることを心がけてもらっています。

医学研究者は専門的知識が高いのですが、巡視を行ってみるとその知識が必ずしも安全行動に結びついてはいません。写真３は実験台の風景ですが、液体の入ったガラス瓶が落下防止柵のない棚に置かれ、作業台の端の方にサンプルチューブが置かれ、作業に関係のないものが無秩序に棚に押し込まれている、といったことが窺えます。助言はしますが、教員のプライドを傷つけないようしないと効果が上がらないのも研究室の特徴でしょうか。

そもそも、医療スタッフは、患者の診療にあたって「定時内」「時間外」「労働時間」といった概念が希薄で、逆にそれを無視して献身的にケアに関わることを美徳と感じる傾向にあります。一方、患者の生命を預かる職業であるため、精神的緊張も強いものがあります。このことから、教職員のメンタルヘルス対策として、相談室を設置し臨床心理士によるカウンセリングを2010年から始めましたが、相談件数は増加しています。

課題は他にもたくさんありますが、安全で衛生的で働きやすい職場づくりを目指します。

写真２

写真３

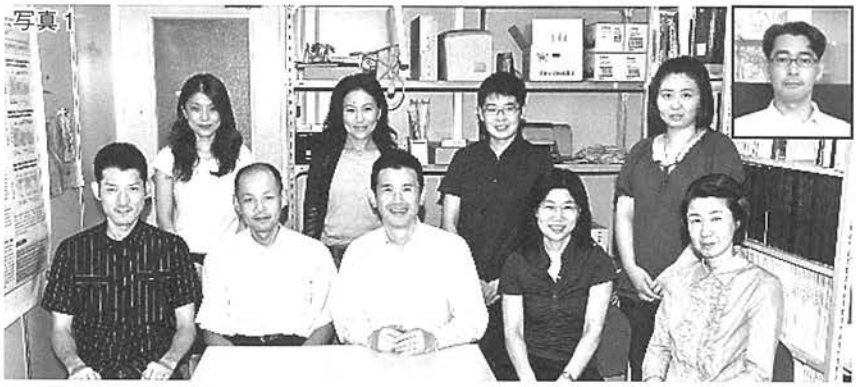


写真１

会員の声

大阪医科大学　看護学部看護学科新設について

大阪医科大学　看護学部看護学科
土手　友太郎

2010年度より本学は看護学部看護学科を新設し、医学部医学科と合わせて２学部となりました。また同年度より土手が縁あって同学部の公衆衛生学の教授として就任しております。そこで概略と近況について誌面をお借りしてご紹介いたします。

教育・入試）"医看融合教育"という本学独自の教育指針を掲げ、医師と看護師が、相互理解を一層深め、協同して医療水準を高めることを目標にしています。平成23年度生までは全員が看護師に加え保健師と、５名まで助産師の受験資格が得られます。さらに平成25年には新研究科設置（博士課程）を申請する予定です。今年度の受験生は、推薦・一次・二次・大学入試センターの４種類の受験形式により、のべ1000名をこえ、前年比約20％増でした。４年制で１学年の定員85名ですが、10名弱の増加枠が認められ、2010年度生は87名（男子４名）、2011年度生は88名（男子５名）です。また入学式は昨年度から医学部と看護学部の合同開催となりました。

教員組織）学長は医学部長と兼任ですが、看護学部長が新たに就任されました。看護分野では専門性を領域と称して分類しています。教員の領域（定員）は、基礎看護学（５名）、急性期看護学（３名）、慢性期看護学（３名）、小児看護学（３名）、母性看護学･助産学４名）、精神看護学（２名）、老年看護学（３名）、在宅看護学（２名）、公衆衛生看護学（４名）、専門基礎（精神医学１名、病理学１名、生化学１名、公衆衛生学１名、哲学１名）です。教員は約30名ですので、入試関連業務、実習や演習、各種委員会などは領域や役職に関わりなく、総動員体制で行っております。マンパワーを補わざるを得ない状況が幸いし、チームとしての一体感が少しずつ出てきたように思います。

講義内容）カリキュラムは前期と後期に分かれ、各週１回90分間で計15回です。私は選択科目として１年次の前期にくらしと社会・環境、必須科目として後期に統計学、保健福祉医療概論、２年次の前期の公衆衛生学の講義を担当しております。また外来実習や実技演習も一部担当しております。また医学部にはありませんが、ユニバーサル・パスポートという新システムを導入し、出欠や資料などをネットで情報の管理や連絡をしています。医学部時代と異なり、全コマ一人で講義するため、学生への親近感や責任感が随分増したように思います。単元修了後、講義内容や方法について学生からの授業評価アンケートに基づき、双方向的な意見交換をしています。

看護研究棟）学部校舎は一部改修予定ですが、附属看護専門学校を引き継ぎます。一方、教員の研究室は2010年、校舎横に看護研究棟が新設され、看護実践研究センターと命名されました。私の研究室は２階で、ライフワークとして、メタボリックシンドーロームの健診結果に関する臨床研究に新規参入しております。また教育では多くの諸先生方のご指導を仰ぎつつ、学生の意向も反映しながら、優秀な看護師を多く輩出できるよう、創意工夫を重ねていきたいと存じます。最後に、完成年度まであと３年ですが、ご縁があれば先生方の職場に勤務する卒業生も徐々に増えてくると思います。その節は暖かくお迎え頂き、ご指導賜りますよう宜しくお願い致します。

リスク評価と生物学的モニタリング

関西労災病院
圓藤　陽子

平成18年から、国による未規制化学物質のリスク評価が実施されています。それによると、まず未規制化学物質としてMSDSの表示義務がある637物質を対象として有害性の評価をし、その有害性が高いと思われる物質について曝露調査をしてリスクを評価し、リスクが高い物質について行政措置等の必要性を判断しています。その結果、ホルムアルデヒド、酸化プロピレン及び１，１-ジメチルヒドラジンが特化則の特定第２類物質、ニッケル化合物及びヒ素化合物が管理第２類物質に指定されています。

このリスク評価における曝露評価は個人曝露測定を基本とし、高濃度曝露の発生を把握する為にスポットサンプリングが補完としてなされていますが、いわゆる作業環境測定法に基づく作業場単位の測定はなされていません。これは、今までの場の管理から曝露管理への転換であり、許容濃度の使用との整合性もあり、望ましい方法だと思います。生物学的モニタリング(BM)は曝露評価法として有効ですので、特殊健康診断の見直し作業の中で検討されているようです。BMならば、個人毎の曝露が把握できますので、中小企業の曝露管理にも有用です。そのためにも、日本人における未規制化学物質の量—反応関係が得られる絶好の機会だと思いますので、是非この曝露実態調査に個人曝露濃度測定とペアでBMを実施して欲しいと思っております。

尤も、この曝露調査の実施については、測定法の開発から始まるケースもありますので、提案できるBM法を開発していかなければなりません。私ども学会員は積極的にBMの開発をしていくことが必要ではないでしょうか？そして技術部会においては、そのようなニーズの紹介と新しい測定法の開発等を紹介していく機会を作ってと思います。

会員の声

私は何障害？

伊藤忠商事株式会社
人事・総務部健康管理室
清原　達也

当社では月１回、衛生委員会とは別に、健康管理室のスタッフと人事担当者が集まってメンタルヘルスに関する意見交換の場を設けています。昨年12月の会で、臨床心理士の先生が大人の発達障害に関するミニ講義をされました。発達障害には、アスペルガー症候群や注意欠陥・多動性障害（AD/HD）、特定の分野の学習障害（LD）などが含まれ、日本でも潜在的に70万人の該当者がいるそうです。アスペルガー症候群は孤高の秀才に多く、シリコンバレーの従業員の１割がアスペルガー症候群であるとか、アインシュタインやビル・ゲイツもアスペルガー症候群らしい、という話は有名です。就職偏差値の高い当社にもアスペルガー症候群の社員がいて、周囲と軋轢を生じていても不思議はありません。

そういえば、少し変わった人たちとして境界性パーソナリティ障害が話題になったのも記憶に新しいところです。また今脚光を浴びている現代型うつ病は、若者の性格の偏り（自己愛やプライドが高い）が発症の一因とされています。社員のメンタル不全の背景を正しく理解するために、産業保健スタッフや人事担当者がこれらの障害の可能性を常に念頭に置くことが必要とされているのかもしれません。

大人のAD/HDの特徴は、落ち着きと集中力に欠ける、飽きっぽい、忘れ物が多い、マイナス思考、などが挙げられますが、会の参加者は口々に「これ、俺のことだ」と笑いながら話していました。これは半分冗談でしょうが、発達障害やパーソナリティ障害の特徴は“正常な人”にもそれなりに当てはまります。問題社員を採点して、空気の読めないあいつはアスペルガー的だ、仕事にミスが多いあいつはAD/HDかもしれない、と決め付けることは容易ですが、そんなレッテルを貼って納得してしまうと、メンタルやコミュニケーションの障害の本質を見誤る危険性が高くなります。

SMAPの大ヒット曲「世界に１つだけの花」は、人それぞれに優劣なく個性のみがあるという歌詞が共感を呼びました。社員のメンタルの問題を扱う時も、問題を抱えた社員にはそれぞれ多様な個性と様々な事情や背景があることを前提にゼロベースで向き合い、「この社員は軽度○○障害の傾向があるから対応は・・・」などと安易に類型化して考えないように心がけたいと思います。

変わることと変わらないこと

シャープ健康保険組合
天理健康管理センター
松田　裕子

産業保健の世界に足を踏み入れて、10年が過ぎた。当時５歳だった長男は、高校生となり、２歳だった娘も中学校２年生となった。無条件に「かわいい、かわいい」言っていた対象が、いつの間にか、私に対して立派に意見する存在まで成長した。親としては頼もしく思う反面、言いようのない寂しい感情が存在するのも事実である。子供の成長とともに、親としての思いの変化も感じながら、改めて、10年という月日の流れを感じる。

この10年で、明らかに世の中の流れ、価値観、価値基準は大きく変わったと思う。

最近、年齢を重ねたせいか、ますます時の流れの速さを感じる。私たちが子供の頃は、通信手段といえば、「電話」、何かを調べると言えば「図書館」というイメージだったが、今は、インターネットに接続する端末機器があれば、できないことはないというくらい進化している。この「ネットワーク社会」が世の中を支配していると言っても過言ではないだろう。社会の変化に伴い、人々、社会、そして、企業の価値観も大きく変化している。ひと昔前の企業の価値基準は、「生産性をあげること、利益をあげること」だったが、今は、利益の追求と同時に、「地球環境を守ること、近隣地域をはじめ社会にも貢献すること、従業員ばかりでなく、様々な人々の幸せに貢献すること」が求められている。

企業の価値観に合わせて、産業保健職は、従業員の健康障害防止、健康維持・増進を支援する立場として、何ができるのであろうか。そのときに大切になるのが、“変わることと変わらないこと”を見抜く目（判断力）だと思う。時代の流れ、人々の生活の変化に応じて、変えていかなければならないことは臨機応変に変える。しかし、「変わること＝進歩すること＝よいこと・すばらしいこと」ではない。“変わらずに守っていかなければならないこと”が必ず存在する。ネットワーク社会になって、作業が便利になり、何事も迅速に処理されるようになったが、現場で働く人々の声が届いているだろうか？本当の意味での人と人のコミュニケーションができているだろうか？という疑問が頭をもたげる。“変わらず守っていかなければならないこと”を伝えることができるのは、産業保健職ではないだろうか。

「第10回近畿臨床産業医学フォーラム」開催のお知らせ

当番世話人：　岡田　邦夫

最近業務用車両の運転中に事故を起こし、多くの犠牲者が出た、との報道がありました。産業保健スタッフとして、このような事故を健康管理の視点から予防しうるのでないか、ということで今回のフォーラムを企画いたしました。眼科疾患、精神疾患、内科疾患などの専門のお立場から、運転業務中の事故を引き起こす可能性のある疾病やその予防対策について貴重なご意見をお伺いできる機会ですので、万障繰り合わせてご参集いただければと思います。

－記－

日　時：平成23年９月７日（水）18：00 ～
場　所：ホテルモントレ大阪　７階「アマリエ」
　　大阪市北区梅田３-３-45　JR大阪駅　桜橋口
　　TEL（06）6458-7111（代表）
参加費：1,000円
申込み：以下の事項を記入の上、第10回近畿臨床産業医学フォーラム事務局（GSK内）までFAX（03-5786-5235）でお申し込み下さい。折返し参加確認書をFAX致します。
　　①ご芳名 ②貴社・医療機関名 ③ご所属・ご役職 ④ご連絡先（電話番号、FAX番号）
締　切：８月22日（月）
＊会場のキャパシティの関係で先着150名様とさせていただきます
問合せ先：第10回近畿臨床産業医学フォーラム事務局
　　樋口・高橋（03-5786-5184）

－プログラム－
テーマ「運転業務と産業医学」

17:45 ～ 製品紹介　グラクソ・スミスクライン(株)
18:00 ～ テーマの主旨説明
　　大阪ガス(株)統括産業医　岡田邦夫 先生
18:10 ～ 講演
　●精神科医の立場から
　　大阪市立大学神経精神医学
　　准教授　井上幸紀 先生
　●内科医の立場から
　　(財)京都工場保健会
　　副会長　武田和夫 先生
　●眼科医の立場から
　　NTT西日本大阪病院　前
　　眼科部長　福田全克 先生
　●産業医の立場から
　　西日本旅客鉄道(株)
　　産業医　上原新一郎 先生
19:10 ～ パネルディスカッション
＊当日は軽食をご用意しております
共催：日本産業衛生学会近畿地方会
　　近畿臨床産業医学フォーラム
　　グラクソ・スミスクライン(株)

第21回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会のお知らせ

メインテーマ：「社会基盤としての産業保健活動」
企画運営委員長：織田　進
（福岡産業保健推進センター所長）

2011年11月23日（水）～26日（土）、アクロス福岡及び西鉄イン福岡を会場として、メインシンポジウム：「社会基盤としての産業保健活動」およびシンポジウム：「人と人とのつながり（ソーシャルキャピタル）を考える」の２つのシンポジウムに加え、リレーワークショップでは、「産業保健職の連携～地域の公的関係機関との連携～」、４部会合同セミナーでは、福岡徳洲会病院を訪問先として準備を進めています。実地研修には、５事業場(トヨタ自動車九州、ブリヂストン久留米工場、TOTO小倉第一工場、安川電機八幡西事業所ロボット工場、新日本製鐵八幡製鐵所)にお願いしています。さらに、メインテーマに即した企画を産業医部会、産業看護部会、産業歯科保健部会にお願いしています。自由集会については、研究会独自のご提案をお待ちしています。ポスター発表には、各部会からのポスター表彰もありますので、奮ってご応募お願いいたします。

本全国協議会では、同時開催研修会として、平成23年11月23日（水）に日本医師会認定産業医研修会および呼吸用保護具研修会を準備しております。当日は祭日ですので、ご都合がよろしければ、ご参加ください。

詳しくは、本全国協議会のHP（http://ncopn21.umin.jp/）をご参照ください。

第85回日本産業衛生学会のご案内

１．会期：平成24年５月30日（水）～６月２日（土）
　・関連行事等を含む全会期。特別研修会は開催されない。
２．会場：名古屋国際会議場
　（名古屋市熱田区熱田西町１番１号）
３．企画運営委員長：
　小林章雄（愛知医科大学医学部　教授）
４．メインテーマ：
　希望！に満ちた労働と生活をサポートするために
５．今後のスケジュール
　演題申込期間：
　　平成23年11月17日(木)～平成24年１月５日(木)
　委員会・研究会等申込期間：
　　平成23年11月17日（木）～ 12月16日（金）
　共催セミナー申込締切：
　　平成24年１月13日（金）
　広告・機器展示・書籍展示申込締切：
　　平成24年２月24日（金）
　学会参加・懇親会事前申込締切：
　　平成24年４月６日（金）
６．事前申込：
　専用ホームページでWeb登録し、参加費等を支払う。
　・例年の方法（産衛誌綴じ込みの「郵便振込取扱票」で申込・支払）とは異なります。
７．専用ホームページ：http://jsoh85.umin.jp/
８．事務局：
　〒480-1195　愛知県愛知郡長久手町岩作雁又21
　　愛知医科大学医学部衛生学講座内
　　第85回日本産業衛生学会　事務局
　　TEL&FAX：0561-62-3580
E-Mail:sanei85@aichi-med-u.ac.jp
※益川敏英先生（2008年ノーベル物理学賞受賞者）のご講演を始め、鋭意企画を進めています。多くのご参加をお願いします。

第51回近畿産業衛生学会（第２報）

学会長　夏　目　誠
（大阪樟蔭女子大学大学院　教授）

１．開催日時と場所

期日：平成23年11月５日（土）９：30～
会場：奈良県文化会館小ホール他
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1717.htm
〒630-8213　奈良市登大路町６－２
ホームページ：
http://jajsr.umin.ac.jp/k-sanei/index.html

２．演題募集要項

(1)演題申し込み

①演題名、②発表者名、③所属、④簡単な要旨、⑤連絡先　等を８月31日（水）までに学会事務局宛に申し込んで下さい。「演題申込ファイル」をE-mail：kinki-sangyo@osaka-shoin.ac.jpに請求して頂ければ、添付ファイルで返信させていただきます。添付ファイルにご記入の上、お申込み下さい。本ニュース同封の演題申込用紙にご記入いただいて、FAXでお送りくださっても結構です。
また、日本産業衛生学会近畿地方会
http://jsohkink.umin.jp/
の「演題申込ファイル」をダウンロードしていただき、学会事務局までE-mailもしくはFAXにてお申込みくださっても結構です。

(2)発表抄録原稿・概要原稿

申し込み受理後、学会事務局から「発表抄録原稿用紙（1600字以内、プログラム用）」と「概要原稿用紙（400字以内、プログラム用）」の２つのファイルをE-mailに添付して送信します。それぞれのファイルに原稿を作成し、E-mail送信してください。原稿の締切りは９月30日（金）17時必着。

(3)口演発表用Power Pointファイル

発表は口演で、一演題11分（口演７分、質疑４分）の予定です。発表用ファイルは、Windows　XPのPower Point2003　にて作成いただき、10月25日（火）17時までに事務局宛にお送り下さい。E-mail添付か、またはCD郵送でお願いします。

３．プログラム（予定）

特別講演
「うつ病」関係の演題
尾崎紀夫（名古屋大学精神科教授）
一般演題、シンポジウム、講演など検討中
懇親会（猿沢荘）ジャズ演奏あり

４．その他

・特別講演・シンポジウムに関しては、日本医師会認定産業医研修の単位認定を申請予定。
日本産業衛生学会産業看護職継続教育（実力アップコース）単位認定を申請予定。
・学会参加申込みは、学会当日受付いたします。(事前申し込みは必要ありません)
・学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1,000円、非学会員は2,000円。懇親会費は3,000円。

５．学会事務局（演題申し込み先及び問い合わせ先）

第51回近畿産業衛生学会事務局
〒639-0298　奈良県香芝市関屋958
大阪樟蔭女子大学心理学部夏目研究室内
担当　　稲田
TEL：0745-71-3137(内565)　FAX：0745-71-3142

会長からのメッセージ

「明日から役に立つ産業保健」のテーマで行います。専門職として日々，職場で活用できるスキルを盛り込みます。特別講演として、100万人を突破した「うつ病」について第一人者である尾崎紀夫教授から、ツボをわかりやすく，身近に講演していただきます。 シンポジウムも「メンタルヘルス関連」を予定しています。

懇親会は「五重塔」が水面に映える猿沢荘で、プロのミュージシャンによる生演奏を予定しています。楽しい学会です。多数の方の参加を熱望しています。

大阪マラソン2011　オフィシャルドリンク
「アミノバリュー 4000」

BCAA 4000mg＋電解質含有
高濃度BCAAが
コンディショニングを整え、
運動を続けていくあなたを
サポートします。
OSAKA
MARATHON
2011
BODY PROTECT
Amino-Value
Otsuka
〒530-0005
大塚製薬株式会社大阪支店
大阪市北区中之島６－２－40
TEL：06-6441-6532

第一回幹事会議事録

日時：2011年６月18日（土）10:50-12:00
場所：大阪市立大学医学部学舎18階会議室
出席：車谷　清田　大脇　植本（監事）　西尾　河合
　　夏目　宮上　圓藤　木村　鮫島　竹村　中西
　　藤岡　森岡　鈴木　久保　土手
欠席：廣部　廣田（監事）　山田　小泉　垰田　宮下
　　岡田　伊藤　伊木（敬称略・順不同）

１．昨年度物故会員の報告
２．議事（詳細は総会議事録参照）
（1）平成22年度事業報告
（2）平成22年度決算報告
（3）平成22年度監査報告
（4）平成23年度事業計画（案）
　（1）から（4）はいずれも異議なく承認された。
（5）平成23年度予算（案）については植本監査役から法人化に伴う業務量の増加等を鑑みて事務局費増額の提案があり幹事会で論議した。
（6）第51回近畿産業衛生学会（奈良）の進捗状況
（7）第52回近畿産業衛生学会（和歌山）の準備状況
（8）その他
　①表彰制度
　近畿産業衛生学会優秀演題賞選考規定（案）を修正し、９月の幹事会で確定する。
　②第53回（2013年度）近畿産業衛生学会の開催地
　③本部新定款承認にともなう地方会の検討課題
　④産業医・産業看護全国協議会の開催地
　近畿での開催は2013年以降になる見通し。
　⑤地方会ニュースの発行状況とホームページ
　⑥本部理事会報告と役割分担
　圓藤吟史理事（本部副理事長）から、東日本大震災に伴う産業保健上の課題のHP上への掲載、定款の改正、中央産業医部会幹事３名・中央産業看護部会幹事４名の選出、「大学・研究機関における安全衛生管理研究会」の創立等について説明があった。
　⑦その他
　大脇幹事から産業看護職実態調査について説明があった。
　次回幹事会は９月上旬で日程調整。

第一回代議員会議事録

日時：2011年６月18日（土）12:10-12:50
場所：大阪市立大学医学部学舎４階小講義室２

１．開会
２．代議員会の成立
　５月15日現在の代議員数116名
　出席37名（委任状48名）
　現在数の過半数の出席により代議員会は成立（地方会会則第13条）
３．昨年度物故会員の報告（総会議事録参照）
４．地方会長の挨拶
５．議長選出
　圓藤陽子会員（関西労災病院）　を選出
６．議事（詳細は総会議事録参照）
（1）平成22年度事業報告
（2）平成22年度決算報告
（3）平成22年度監査報告
（4）平成23年度事業計画（案）
（5）平成23年度予算（案）
　（1）から（5）はいずれも異議なく承認された。
（6）第51回近畿産業衛生学会（奈良）の進捗状況
（7）第52回近畿産業衛生学会（和歌山）の準備状況
（8）その他
　①地方会ホームページと地方会ニュースの発行
　②本部新定款承認にともなう地方会の検討課題
　③近畿産業衛生学会優秀演題賞の創設
　④第53回近畿産業衛生学会の開催地
　⑤本部理事会の動向（詳細は幹事会議事録参照）
　⑥その他
７．議長解任
８．閉会

会員の異動（敬称略）

<新入会員>

藤田　圭子	ライオン(株)大阪工場
杉岡　潔子	パナソニック健保　産業衛生科学センター
津島　廣美	神戸大学大学院保健学研究科
花谷　隆志	花谷心療内科クリニック
小川　史顕	京都工場保健会　宇治支所
長岡　美幸	三菱電機㈱神戸製作所　総務部安全衛生課　健康増進センター
林　利恵	塩野義製薬株式会社
豊川　かおる	センタークリニック
江崎　ゆかり	㈶日本健康開発財団　Ｊスクエア西日本健康増進センター
滝田　はるみ	オムロン㈱
大久保　千里	㈱ジェイテクト
柚木　孝仁	(医)崇孝会　北摂クリニック
小林　廣之	パナソニック㈱AVC社　茨木健康管理室
久保山　香	ＳＫＹ㈱
中村　妙子	京都工場保健会　宇治支所
松村　典行	(有)神戸労働衛生研究所
清水　政彦	ダイハツ保健センター
三嶋　正芳	ダイハツ保健センター
伊藤　紗織	パナソニック㈱AVC社　南門真健康管理室
大石　佳世子	みずほ大阪健康開発センター
横川　裕子	日東電工㈱人材統括部人事部労政･要員グループ
藪下　二三枝	(独)理化学研究所　播磨研究所　健康管理室
谷口　有紀	大阪市立大学大学院医学研究科　産業医学
大石　美保子	西日本旅客鉄道株式会社
長谷部　麻里	パナソニック㈱本社Ｒ＆Ｄ部門　西門真地区健康管理室
亀井　信恵	ＮＥＣシステムテクノロジー㈱
永井　ひろ子	聖泉大学
池田　幸代	(独)理化学研究所　計算科学研究機構
池田　行宏	近畿大学医学部附属病院安全衛生管理センター
青山　美幸	個人

<再入会>
安里　望
松瀬　亮一

編集後記

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から早や４ヶ月、その爪痕は余りに大きく、今だに多数の人々が行方不明で、避難所での生活を余儀なくされている被災者も多くおられます。また福島第一原発事故を巡っては、一難去ってまた一難、次々に難題が現れ収束に向う気配は見えません。被災者をはじめ関係者の心身の健康が気掛かりですが、一日も早い復興に向けて、各々の立場で支援を続けていきたいと思います。
（藤岡）

編集委員（五十音順）
大脇多美代（編集責任）
河合　俊夫　　木村　隆
鈴木　純子　　竹村　芳
中西　一郎（広報事務局）
藤岡　滋典　　宮下　和久